ACTA ARACHNOL., XXV, (1), 1973.

スズキコモリグモの記載

八木沼健夫

追手門学院大学生物学研究室

A New Wolf Spider from Japan

Takeo YAGINUMA

Biological Laboratory, Ohtemon-Gakuin University,
Osaka, Japan

スズキコモリグモ *Lycosa suzukii* は大型のコモリグモで，かなり有名でありながら，未だに有効学名を持たない。各所に散見される *L. suzukii* なる学名はわが国の学者間には通じるが命名規約上の条件を具備していないため国際的には通用しない。従って今回スズキコモリグモを正式に記載することにした。

このクモが最初に登場した文献は片桐（鈴木）三樹著「蜘蛛」（長野県下伊那理科会）(1934) であり簡単な記載と図（色彩図）があるが印刷が孔版であるため原記載とみなされない。次に登場したのが小松進篇（千国安之輔ほか執筆）の「日本アルプス山系の蜘蛛」(1941) で，図および記載があるが，記載者が明記されていないのでこれも原記載と認められない。その後は八木沼の「原色日本蜘蛛類大図鑑」に原色図と記載が掲げられたので命名者は八木沼になるのではなかろうかとの意見も出たが，この時点での命名規約の要求する条件をみたしていないので八木沼が命名者という意見を退けて来た。しかし考え方によっては成立しないでもないので筆者とても心苦しい次第であった。筆者はすでに Atypus (54), p. 16 に記したように，「博物の友」に記載があると教えられていたので，そのまま命名者 KISHIDA として記述したのであるが，後に「博物の友」ではなく片桐氏の著書であることを知った。このまま放置しておくことは取扱上明確を欠くし，また巨大な有名なコモリグモに有効名のないことも困るので明確な記載を残しておく必要がある。

本種の正式の記載をしようと考えてから数年経過したが，他の何かとシノニム関係にならないかと慎重に調べていたためである。もっとも本種に該当しそうなのはムナグロオオコモリグモ（サシゲコモリグモ）*Lycosa pia* BOES. et STR., 1906 で雄のみの記載ではあるが，体長 20 mm，腹部下面黒色で黄褐色のふちのあること，腹背の斑紋など極めて似ているので，スズキコモリグモはこれではないかとの疑が濃厚であった。原記載以来 *Lycosa pia* の採集例のなかったこともこの疑問を強くして来た。事を急ぎ大胆に同定するならば，おそらくスズキコモリグモは *Lycosa pia* のシノニムにされるおそれは多分にあった。ただ *L. pia* の歩脚に明確な輪紋があるがスズキコモリグモにはそれが見られない点が，スズキを *pia* に同定することをちゅうちょさせて来た。本種と *pia* との関係を知るためにはタイプ標本を見る以外にないと考え，ドイツの GRASSHOFF 博士に乞うて

Lycosa pia の標本をお借りした。タイプは雄の巨大なクモで，スズキコモリグモより大きい（体長20 mm），一たん乾燥したものらしく，脚はぼろぼろ，腹部はちぢんでおり腹背腹面の詳細な観察はできない。しかし幸なことに触肢は左右とも健全であったので構造を十分調べることができた。その結果スズキコモリグモと全く異なる種であることを確認した。永年の疑問も解消したので，ここにスズキコモリグモを改めて記載することにした。学名と和名はともにすでに知られている従来のものをそのまま生かすことにした。こうすることによって混乱は避けられるし，研究された岸田久吉氏の意志を生かすこともでき，また献名を受けられた片桐（鈴木）氏も浮ばれることであろう。

本研究に当り，Senckenberg Museum にある標本をわざわざ航空便でお送り下さった GRASSHOFF 博士に心から厚くお礼申し上げる。

記　　載

Lycosa suzukii n. sp.
（スズキコモリグモ）

所検標本：山形県羽黒町，11-X-1951，♂，興津伸二採（現在国立科博に保管）；山形県川西町，9-X-1963，♀，錦三郎採（Holotype）；岡山県真庭郡八束村，27-VII-1972，♂ subad.，西川喜朗採；大分県，VIII-1963，♀，佐藤真一採；韓国大邱市，5-X-1958，♂，白甲鏞採(Paratype).

Holotype（♀）　体長 18 mm；頭胸部長 8.5 mm，同幅長 6.4 mm；第1脚 20.2 mm，第2脚 18.8 mm，第3脚 17.3 mm，第4脚 24.2 mm.

頭胸部は長さ幅にまさり頭部両側平行，頭部は低く両側傾斜する。浅い頸溝と放射溝があり中窩は長く深い，前列眼の前端線は端直で後端線は前曲，前中眼は前側眼より著しく大きい。前列眼はほぼ等距離に並び，その間隔は前中眼の半径より小さい，第2列は第1列よりやや長い。第2列眼間はその眼の直径よりやや短い。額は前中眼径の約1.5倍。上顎の後牙堤に3歯あり，下唇の基部はくびれ長さ幅にまさる。歩脚式は4123. 第1脚脛節前側面に斜に4本の列があり，下面からは3対の列が並んで見え，そのうち1対は先端にある。第1脚跗節背面の基部近くに1本の長毛がある。第3・4脚脛節背面に基部と中央部に1本ずつ刺がある。全脚腿節背面に2本の刺があり，跗蹠節下面には密生した毛束がある。第4脚の蹠節は膝脛の合長より明らかに短い，前疣は後疣より太く少し長い。何れも末節は短小，外雌器は Fig. 3 に示す。

色彩：頭胸部背面黒褐色で中央と両側に白毛縦条があり，側縁にも細い白色条がある。中窩黒褐色，放射溝にそって黒色毛を三角形状に生じ末端は切断状に終る。背甲の大部分を占める2黒条の前方の褐色部に短かい2本の黒条斑（*Trochosa* に似る）がある。上顎は黒色で外顆のみ赤褐色で目立つ。触肢は橙赤色，下顎・下唇・胸板は黒色，歩脚も濃黒褐色で輪紋を欠く，腹部背面の心臓斑は披針形で黒色，その両側下方に斜に走る3対の点条がある。後方に黄白色の細帯が3-4本並ぶ。腹部下面は橙黄色でかこまれた大きな濃黒円斑があり（Fig. 4），その後端近く方に2個の黄白小斑がある。外雌器のキチン部は赤褐色。

Paratype（♂）　体長 11.7 mm；頭胸部長 5.7 mm，同幅長 4.4 mm；第1脚 17.1 mm，第2脚 16 mm，第3脚 14.6 mm；脚4第 20.9 mm.

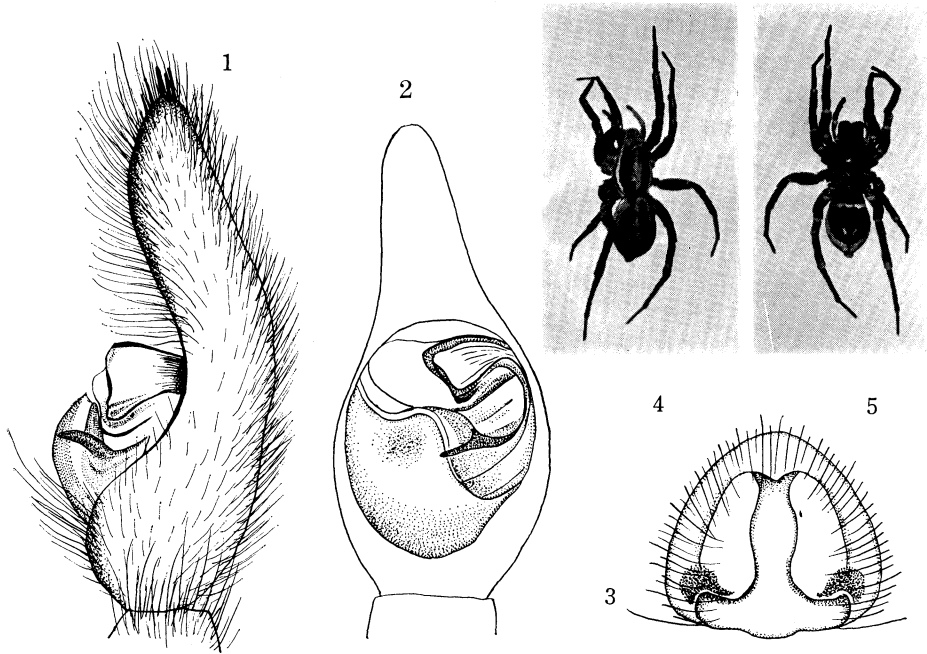
体が小さいこと，歩脚が少し淡色（但し液浸）であること以外各部の形態や色彩斑紋は Holotype と全く同じ，触肢は Fig. 1，2 の如くで，*Lycosa coelestis* のそれに極めて酷似する。
本種の生態に関しては小松敏宏（1937）の詳細な報文がある。

Lycosa suzukii n. sp.

Fig. 1. male palp, ectal view. Fig. 2. male palp, ventral view. Fig. 3. epigynum. Fig. 4. female (holotype), dorsal view. Fig. 5. female, ventral view.

Lycosa suzukii **n. sp.**

(Japanese name: Suzuki-komorigumo)

Holotype (♀). Kawanishi-chô, Yamagata Prefecture, 9-X-1963, S. Nishiki leg.

Total length 18 mm; cephalothorax 8.5 mm long, 6.4 mm wide; Leg I 20.2 mm, II 18.8 mm, III 17.3 mm, IV 24.2 mm.

Cephalothorax longer than wide, about 17: 13 in ratio. Both sides of cephalic part parallel. Head not so elevated, with sloping sides. Curvical grooves and radial furrows shallow, while median furrow long and deep. First eye row slightly shorter than the second. A line through the lower

edges of anterior eyes straight; a line through upper edges procurved. Anterior median eyes much larger than the laterals, separated from each other by less than the radius and also from laterals by the same distance. Posterior median eyes separated by slightly less than the diameter. Quadrangle formed by posterior eyes wider than long, 20: 13 in ratio. Posterior lateral eyes smaller than posterior median eyes, larger than anterior median eyes. Clypeus about 1.5 times as long as the diameter of anterior median eye. Retromargin of fang furrow armed with three robust teeth. Labium notched at base, longer than wide. Leg formula 4•1•2•3. Tib. I with an oblique row of four spines on prolateral side and three pairs of spines on venter, of which the distal pair on apical end. Tarsus I with a long hair, longer than trichobothria, spines and other hairs, on the dorsum near the base. Tib. III and IV each with two dorsal spines. Each femur with two dorsal spines. Tarsi and metatarsi of all legs provided dense scopulae below. Met. IV shorter than the total length of Tib. IV and Pat. IV. Anterior spinneret thicker and slightly longer than the posterior one, the both apical segments much shorter than the basal ones. Epigynum, resembles that of *Lycosa atropos* L. KOCH, as shown in fig. 3.

Colour: Carapace blackish brown, with three stripes composed of white hairs and a thin white stripe on each side. Median furrow deep brown. Radial furrow with black marks becoming broader ectally and truncated at the outer white stripes. Cephalic part with two short black bars, as seen in *Trochosa*, between two black stripes. Chelicerae black, excepting red lateral condyles. Palp reddish orange, becoming darker towards the end. Chelicera, labium and sternum black. Legs deep brown without ring flecks. Cardiac pattern black and lanceorate in shape, and followed by three pairs of oblique black dotted lines and narrow yellowish white bands on the posterior half. Venter of abdomen with a large glossy black patch with two small yellow spots near the spinnerets. Epigynum reddish brown.

Paratype (♂). Taegu, Korea, 5-X-1958, ♂, Paik Kap Yong leg.

Total length 11.7 mm; Cephalothorax 5.7 mm long, 4.4 mm wide; Leg I 17.1 mm, II 16.0 mm, III 14.6 mm, IV 20.9 mm.

Quite similar to the holotype in shape and colour, with the exception of the small body. Palp resembles that of *Lycosa coelestis* L. KOCH, as

shown in figs. 1, 2. Apical end of tarsus with several stout spines. Without claw.

Notes. This species is difficult to discriminate from *L. coelestis* L. Koch, *L. atropos* L. Koch and *L. subcoelestis* Fox by the structure of male palp, but it is separable from *L. coelestis* by the shape of the epigynum and the colour of the body; from *L. atropos* which has also similar epigynum by the length of posterior spinnerets being smaller than the anterior ones and by the ventral pattern of the abdomen; from *L. subcoelestis* by the colours of sternum (*L. suzukii*——black; *L. subcoelestis*——yellow brown) and venter of abdomen (*L. suzukii*——black; *L. subcoelestis*——orange), and size (L. subcoelestis is much smaller).

This species also resembles *L. pia* BOES. et STR., in size and colour of the body, but the male palp is quite different from that of the latter.

Though this species may be placed in various genera according to different keys by different authors. i. e. *Hogna* (ROEWER: 1958), *Lycosa* (KASTON: 1948) and *Tarentula* (LOCKET & MILLIDGE: 1951), the present author prefers to put in *Lycosa* in many characteristics.

Distribution. Honshu (Yamagata Pref., Saitama Pref., Tokyo Pref., Nagano Pref., Okayama Pref.), Kyushu (Oita Pref.) and Taegu, Korea.

Type specimens are preserved in a collection of the Arachnological Society of East Asia (Osaka, Japan).

スズキコモリグモの近縁種

1. *Lycosa coelestis* L. KOCH, 1877 ハラクロコモリグモ

大形であること，腹面の黒いことのほか雄の触肢の構造が極めて酷似している。触肢のみの比較ではあまりにも微小な差なので同種と判断する可能性は十分にある。しかし，体色や斑紋は全く異っているし，外雌器の形態がちがっているので区別できる。

2. *Lycosa atropos* L. KOCH, 1877 キョクトウコモリグモ

日本及び中国に分布するクモで，KOCH の記載では明瞭ではないが，FOX (1935) の中国産の *L. atropos* の記述や図によれば外雌器の形態が似ており，さらに雄の記載では触肢の形態が，上記 *coelestis, subcoelestis* と区別し難いほど似ているとある点から，スズキコモリグモの触肢も *atropos* に似ていることが考えられる。しかし，体の大きさや，腹部背面腹面の斑紋がちがっており，*atropos* は前疣より著しく長い後疣を持っている。斉藤 (1939, 1941, 1959) 記載の *L. atropos* の外雌器ならびに全形背面図では類似性はまったく見られない。

3. *Lycosa pia* Boes. et Str., 1906 ムナグロオオコモリグモ

本報の最初に記した如く体の大きさ，背腹面斑紋など似た点が多いが，雄の触肢の構造はまったく異っている *L. pia* には歩脚に明瞭な輪紋がある。

4. *Lycosa subcoelestis* Fox, 1935.

筆者は標本を見ていないが，Fox (1937) によれば，本種の♂の触肢も *L. atropos* や *L. coelestis* に似ているというところから，スズキコモリグモの♂の触肢も似ていることが考えられる。しかし *L. subcoelestis* の記載によれば *L. coelestis* より小形であるし，胸板は淡褐色，腹部下面は橙色であるなどの点でまったく異なっている。

スズキコモリグモの所属する属

コモリグモ科は学者により標徴のとり方や重視度により同じ種が，種々の異った属に取扱われることが多く，未だに自然分類における属の標徴が確立していない。従ってスズキコモリグモも人により属を異にすることが考えられる。

最初の命名者たる岸田はかなり属の範囲を広くとっており，その見解からは *Lycosa* におかれたことは当然である。従ってその後の報文もすべて *Lycosa* として用いられて来たが，属の検討をした者はなかった。

スズキコモリグモを Roewer の検索表 (1958) により属を求めると *Hogna* 属に落ちる。また Kaston (1948) の検索表によれば *Lycosa* となる。Lockett & Millidge (1951) によれば *Tarentula* となるが，この *Tarentula* は Kaston らの *Lycosa* に相当するものである。Roewer の *Hogna* も Simon の *Lycosa* を細分した一つの属であるから，何れにしても *suzukii* は現在の *Lycosa-Pardosa* 派の *Lycosa* に落ち着く。

また雄の触肢の構造のほか，外雌器の形態や背甲の斑紋は *Trochosa* 属のものにも似ており，かつ，本種に近似の *L. coelestis* の染色体数が *Trochosa* と同じ（鈴木，1954）であるなどの点から，本種も *Trochosa* に近縁であろう。

分　　布

今日までの採集例はそう多くはないが，局地的ながらも日本に広く分布するものと思われる。韓国からも産することから，かなり分布は広いものであろう。現在まで発見されている地域は次の通りである。

山形県（興津伸二・錦三郎），埼玉県（大野正男），東京都（加藤正世・岸田久吉・深沢治男・植村利夫・萱嶋泉），長野県（小松敏宏・片桐〔鈴木〕三樹・千国安之輔），岡山県（西川喜朗），大分県（佐藤真一），韓国（白甲鏞）.

長野・東京では減少の傾向にあるとか。

文　献

(本文に関連のある頁, fig. のみ示す)

FOX, I., 1935. Chinese spiders of the family Lycosidae. J. Wash. Acad. Sci., **25**: 454-456. fig. 1

———, 1937. New species and records of Chinese spiders. Amer. Mus. Nov., (**907**) : 4-6, fig. 1.

片桐（鈴木）三樹, 1934. 蜘蛛, 長野, 下伊那理科会。p. 112, fig. 112.

KOCH, L., 1878. Japanische Arachniden und Myriapoden. Verh. d. k. k. zoo, bot. Ges., **27**: 38-43, pl. 16, figs. 34-36.

小松敏宏, 1937. スズキドクグモの観察記. Acta arachnol., **2**: 2-5.

小松進ほか, 1941. 日本アルプス山系の蜘蛛. 長野, 信濃教育会南安曇部会。pp. 129-130, pl. 14, fig. 6.

SAITO, S., 1939. On the spiders from Tôhoku, Japan. Saito Ho-on kai Mus. Res. Bull. (**18**) : 75-76, textfig. 9-6.

斎藤三郎, 1959. 原色蜘蛛類図説。東京, 北隆館。p. 48, pl. 5, fig. 27, pl. 6, fig. 27.

———, 1941. 蛛形綱真正蜘蛛目（II）. 日本動物分類, 東京, 三省堂。pp. 89-90, fig. 90; pp. 92-93, fig. 103; pp. 113-114, fig. 128; pp. 118-119, fig. 135.

新海栄一, 1969. 東京都産真正蜘蛛類。東亜蜘蛛学会。p. 37.

SUZUKI, S., 1954. Cytological studies in spiders III. Studies on the chromosomes of fifty seven species of spiders belonging to seventeen families, with general considerations on chromosomal evolution. J. Sci. Hiroshima Univ., B. 1, **15**: 40-41, p. 98.

八木沼健夫, 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑。大阪, 保育社。p. 83, pl. 39, fig. 216, 217, text-fig. 75 (1.3).

———, 1970. 日本の真正蜘蛛類相。国立科博研報, **13**: 666.

———, 1970. 疑問種の学名の取扱いかた。Atypus, 54, p. 16.